

社団法人日本東洋医学会関東甲信越支部

# 栃木県部会のあゆみ

関東甲信越支部栃木県部会

## 栃 木 県 部 会 の あ ゆ み

### 序 文 「栃木県部会のあゆみ」発行によせて

獨協医科大学名誉教授 石 崎 達…………… 1

「栃木県漢方研究会」回顧……………日野原 正…………… 3

「関東甲信越支部・栃木県部会」を主催して……………北 島 敏 光…………… 5

栃木県部会の現況と将来……………粕 田 晴 之…………… 7

栃木県漢方研究会 学術報告…………… 11

日本東洋医学会関東甲信越支部栃木県部会 学術報告 ……………16

日本東洋医学会関東甲信越支部 学術総会（栃木県部会担当）……………30

栃木県部会・市民公開講座「漢方で元気」……………32

平成16年度栃木県部会役員……………36

[資 料]……………37

関東甲信越支部学術総会（東日本支部）の動向……………38

日本東洋医学会関東甲信越支部栃木県部会会則……………40

栃木県部会会員数推移 社団法人日本東洋医学会専門医（栃木県部会）……………42

獨協医科大学漢方研究会……………44

自治医科大学漢方研究会……………46

国立栃木病院漢方医学入門シリーズ……………48

宇都宮市漢方懇話会……………50

（付）「栃木県漢方研究会・中国医療視察」報告記……………52

栃木県部会 目で見るあゆみ……………55

跋

奥 付

## 「栃木県支部会のあゆみ」発行によせて

獨協医科大学名誉教授

石 崎 達

この度「栃木県支部会のあゆみ」を発行するに当たり、県下に東洋医学研究の気運が高まり、その熱意を受けて「栃木県漢方研究会」を発足させた獨協医科大学現役時代を顧み、その後の関係各位の努力にふれて序文に代えたい。

明治初年、ドイツ医学にその範をとったわが国の医学は、第二次大戦後はアメリカの実践主義医学に傾倒するに至った。しかしこの西洋医学への傾倒の蔭にあって、明治28年1月第8回通常総会においてその医療が否決され、雌伏してきた漢方医学が次第に見直されるに至った。それは、西洋医学の手法では全ての疾患に対処しえない現実に鑑み、漢方製剤の効果を再確認したものであり、殊に昭和47年7月、日中国交が回復するや中医学への関心が高まり、多くの医師が訪中して中医学の実態を伝えた。

獨協医大病院の医師の中にも外来診療で漢方薬を投与する医師もあり、その使用基準判定のため薬事審議会の下部組織として院内に「漢方研究会」が発足した。このような事情は単に獨協医大だけではなく、県下の各施設でも同様であることが(株)ツムラによってもたらされた。そこで同好の士が語り合って昭和56年11月14日、宇都宮グランドホテルにおいて「栃木県漢方研究会」を開催した。その後準備期間をおいた昭和57年6月26日、第1回の学術報告会を開催し、ここに正式に発会することとなった。この歴史的発会の日、大西幸雄栃木県医師会長にご祝詞を戴き、また私も感想を述べたが、思えばつい昨日のこのようである。

栃木県支部会は、「栃木県漢方研究会」が充実していたためこれを母体として発展的改称し、平成4年に社団法人日本東洋医学会関東甲信越支部の下部組織として参画できたものであり、関東甲信越の中でもスムーズに移行した県の一つである。私は昭和55年3月に獨協医科大学を定年退職し、昭和62年まで会長の職にあったが、その後、研究会の運営を気管食道科の日野原正教授に委ねた。そして、研究会は歴代会長のもと同好の志の熱意と努力により今日の隆盛をみるに至ったが、これに至る関係各位の努力には感謝の念を禁じえない。その後の経緯と隆昌の詳細については、三人の会長の寄稿とこれまでの学術報告一覧に譲るが、本会がさらに発展して中西合作医学の実を挙げ、国民健康保持のため福音をもたらさんことを祈念するものである。

平成17年1月 壬生町通町自宅にて



## 「栃木県漢方研究会」回顧

岡田記念耳鼻咽喉科クリニック院長

日野原 正

「関東甲信越支部栃木県部会」の前身である「栃木県漢方研究会」の設立に関与した一人として当時を顧み、その後の「県部会」への移行について記す。

昭和53年秋の頃、獨協医大病院外来診療における漢方薬を処方する医師の漸増に伴い、院内に漢方の勉強会を作ってはと、斉藤昭好薬剤部長から打診があった。例えば、私が前任地の聖路加国際病院で“耳鼻咽喉科領域の漢方”について小著を書いているので適任とのこと、数日逡巡ののち漢方に造詣の深い建部 守副薬剤部長と相談し、薬剤部の一室で二十数人の参加による「漢方勉強会」を開いた。その後、針治療にも関心と経験をもつ第一麻醉科の北島敏光助教授の参画を得て、会は次第に充実定着し、後年は同助教授の声掛けで東洋医学に興味をもつ医学生も交えて、この会は私が退職した平成9年3月までに153回を重ねた。

その間、栃木県下に関心をもつ医師が多数いることが分かり、東洋医学に理解をお持ちの石崎 達教授に「栃木県漢方研究会」の設立について相談した。先生と何度か構想を練り、まず東洋医学会の重鎮を招いて講演会を開催し、その反響をまって再考することとした。かくして1年後の昭和57年6月、記念すべき第1回の「栃木県漢方研究会学術講演会」を開催する運びとなった。会員は医師のみとせず、鍼灸師、薬剤師を含め広く門戸を開き、事務局を獨協医大気管食道科学教室に置いた。年2回の研究会には、毎回中央から識者を招いて特別講演をお願いし、参加者の東洋医学への関心を高めた。この間、(株)ツムラの後援は絶大であったことを記録に留めたい。

「漢方勉強会」から「漢方研究会」時代、特筆すべきことは、当時自治医大に留学中であった中国瀋陽市の単書春先生を招いて中国医療事情をお聞きしたことと、3回にわたって中国医療施設を訪問したことで、その第1回の報告記(52～54ページ)を読むと当時の参加者の熱意を思い起こす。また昭和63年5月、(株)ツムラの好意により牛久の茨城工場を見学したのも会員の熱意によるものであった。

その後の「関東甲信越支部栃木県部会」の発足は、以

### 栃木県漢方研究会発足

日時：昭和56年11月14日(土) 18:00～

会場：宇都宮グランドホテル

臨時世話人代表挨拶

獨協医科大学教授 石崎 達

栃木県医師会常任理事 伊藤 綏

学術映画上映

菊谷豊彦監修「漢方の診断と治療」

特別講演

「漢方治療の原理と実際」

北里研究所附属東洋医学総合研究所

臨床部長 大塚 恭男

研究会運営について 日野原 正

懇親会 (出席者63名)

下の事情で中央からもたらされた。

平成初年、日本東洋医学会は時の漢方ブームの追い風を受け、学会の充実と近未来の専門医制度導入を目指して会員獲得と全国的な組織整備を急務とし、その一環として「関東甲信越支部」を発会し、9県輪番制による学術講演会を企画した。当時、学会理事であった杵淵 彰先生の適切な指導により、「栃木県漢方研究会」から「関東甲信越支部栃木県支部会」への移行を真剣に討議し、スムーズに発展改称できたのは幸運であった。かくして、輪番制による「支部会の学術講演会」も新潟県に次いで早い時期に担当する栄を果たした。他県では、複数研究会の調整に苦慮したり、全く研究会のなかった県もあり、県支部会の結成に遅速があったと聞く。

石崎 達教授には、昭和55年3月に退任された後も同62年まで会長をお願いした。その後任を引き継いだ平成3年、研究会から「栃木部会」へ移行することとなり、平成4年6月24日に「第1回栃木部会学術講演会」を開催した。その後平成9年3月私の退職後、北島敏光教授が後任会長として本会発展に尽くされた。この一連の推移の原動力は偏に会員各位の理解と一致団結によるものである。ここに上記の方々のほか、大西幸雄、伊藤 綏、川上 稔、高久史麿、吉田充男、青木延雄、村井敬爾、川畑 勉、小松崎 修、山内 浩、村田高明、関口直男、長田浩一、牧野莊平、各先生には、「漢方研究会」発足以来絶大なるご協力をいただいた。記してここに感謝の誠を捧げる。また終始、会務資料の作成に尽力いただいた獨協医科大学気管食道科の手塚弘子秘書に御礼を申し上げる。

(役職は当時の現職名)



津村順天堂茨城工場見学（茨城県稲敷郡阿見町） 昭和63年5月15日



## 「関東甲信越支部・栃木県部会」を主催して

獨協医科大学麻酔科学教室教授

北 島 敏 光

平成9年4月から日野原正会長のあとを引き継いで粕田晴之現会長に委譲するまでの3年間、県部会長を務めました。任期中に教育講演会を2回と、第56回関東甲信越支部学術総会を主催し、またこの間に「漢方製剤の保険薬価削除」反対署名運動を行いましたので、これらについて記します。

### 1)「教育講演会」開催

平成9年9月の第6回教育講演会は、関口直男先生のご尽力により国立栃木病院地域医療研修センター講堂で開催し、教育講演2題、一般演題9題が発表されました。教育講演は、森雄材先生（森医院・神戸中医学研究会）が漢方薬を古典的な概念で解説し、また田代眞一先生（昭和薬科大学病態科学教室）が薬理学的な立場から講演されました。平成10年8月に開催された第7回教育講演会は、教育講演2題、一般演題9題が発表されました。教育講演は、佐藤弘先生（東京女子医科大学附属東洋医学研究所）が当時トピックスであった肝疾患の漢方療法について講演し、また日野原先生が栃木県における中・近世の医療を取り上げ、看病僧である弓削道鏡、足利学校における医学教育、高根沢の宇津救命丸、日光の御種人参について講演されました。

### 2)「関東甲信越支部学術総会」開催

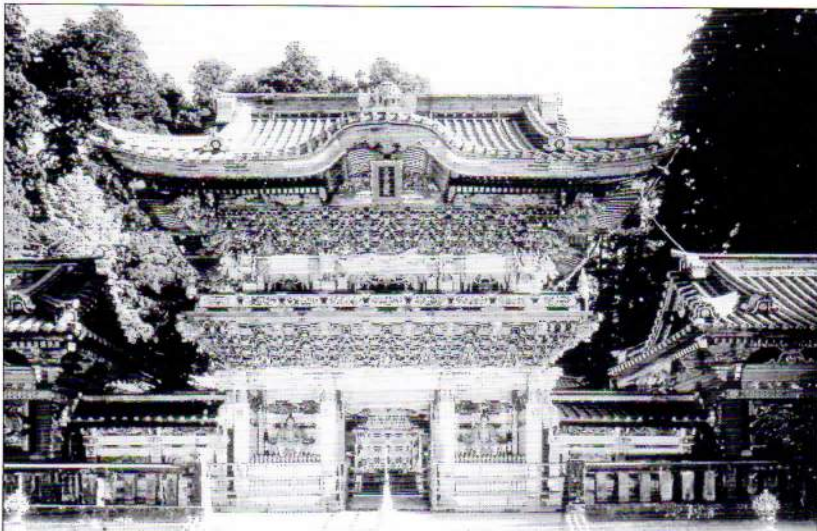
平成11年10月、栃木県総合文化センターで第56回関東甲信越支部学術総会を主催しました。会場を3つに分け、特別講演2題、シンポジウム1題、一般演題37題という内容でした。特別講演は、日野原先生が栃木県部会を代表して講演し、また中田敬吾先生が細野診療所での頻用処方についてお話されました。またシンポジウムのテーマを疼痛疾患の漢方療法とし、奥田圭子先生が「腰下肢痛と漢方」、土地邦彦先生が「頭痛に対する漢方治療—当クリニックでのまとめ—」、町俊夫先生が「関節痛」について講演され、すべて成功裡に終了させることができました。

### 3)「漢方製剤の保険薬価削除」反対署名運動

平成6年頃よりビタミン剤、ハップ剤ならびに医療用漢方エキス製剤を健康保険から削除するという動きがあり、日本東洋医学会は「漢方製剤健康保険問題についての要望署

名運動特別委員会」(委員長:佐藤弘理事)を設置して全国的に署名運動を展開しました。日本東洋医学会は、最終的に約150万人の署名簿を厚生大臣に提出しました。私が会長を務めた平成9～11年頃にも漢方製剤を健康保険から削除するという動きがあり、これに呼応して、再度栃木県部会は署名運動を会員一致協力して展開したことは記憶に新しいところです。その後、アメリカから生薬や針治療の有効性が次々と報告されると、漢方製剤を健康保険から削除するという動きは消退しました。

最近では、漢方療法は補完・代替医療として日常診療に使用する医師が増えています。しかし、日本東洋医学会の会員となる医師は未だ少なく、十分な知識を持って漢方医学を実践しているとは思えません。今後は、栃木県内での東洋医学の啓蒙ならびに普及のために、粕田現会長をサポートしていきたいと思います。



**日本東洋医学会  
第56回関東甲信越支部学術総会**

**会 期／1999年10月17日  
9:00～17:00**

特別講演Ⅰ 日野原正先生(獨協医科大学気管食道科前教授)  
特別講演Ⅱ 中田敬吾先生(聖光園細野診療所)

● 会 長／北島 敏光  
● 会 場／栃木県総合文化センター  
栃木県宇都宮市本町1-8  
TEL 028-643-1000

**【事務局】**  
獨協医科大学第一病勢学教室  
〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町辻小4680  
TEL 0282-86-1111・内線 2771  
FAX 0282-86-0478



**演題募集締切 1999年7月31日**



# 栃木県部会の現況と将来

国際医療福祉大学 教授

国際医療福祉病院 麻酔科部長

粕 田 晴 之

## 1. 栃木県部会の活動状況

会長を引き継いだ平成13年当時は、日本東洋医学会自体がEBM (Evidence Based Medicine) を踏まえた漢方の解明など、いろいろな意味で生れ変わる事が期待されていた時代でした。栃木県部会も会長交代を機にリフレッシュを図りたいと考え、いくつかの新提案を実施に移しました。

県部会発展に貢献してこられた関口直男副会長が会長交代を機に、川畑 勉副会長がその翌年に、それぞれ後進に道を譲りたいと表明されました。そこで、新副会長を手塚隆夫先生にお引き受け頂くとともに、清水廣三、金子 達、杉山幸比古、齊藤 仁先生ら新幹事の加入で若返りを図り、さらに小菅敏雄先生ら薬剤師部門からの幹事起用を決定しました。

県部会学術集会の会場を国立栃木病院から宇都宮グランドホテルに移し、プログラム抄録集をB版からA版に変更して、外見からも県部会活性化に向けて変化を加えようと試みました。また、一般市民の方々に漢方医学を正しく認識してもらえる講演会を企画し、学会会員向け「学術集会」と一般向け「市民公開講座」の二本立てとすること、さらに、県部会として10年にもなることから、「栃木県部会のあゆみ」を発刊することが提案されました。

県部会事務局では「幹事メーリングリスト」を作成し、電子メールを利用した幹事相互の自由な意見交換と連絡通信の迅速化を図りました。メールアドレスは、自治医科大学事務局発足当時のjms.toyo@jichi.ac.jpで始まり、国際医療福祉大学転任後の新事務局ではtoyo.tochigi@iuhw.ac.jpと改めて、メール機能の継続運用を図っています。また、戸村光宏先生のご尽力で県部会ホームページが開設され、学会会員向け「県部会学術集会」と一般向け「市民公開講座」の案内、会員と一般市民からの問い合わせ等に利用されています (<http://dome.ruru.ne.jp/tomura/touyouigakutochigi01.htm>)。

## 2. 市民公開講座「漢方で元気！」

一般市民の健康に対する意識の高まりとともに、漢方に対する関心も大きくなってきています。しかし一方で、漢方薬に対する誤った考えのみられることも事実です。そこで、漢方を正しく認識してもらうことを目的として、平成15年から「市民公開講座・漢方で元気」を開催しています。会場は3年連続盛況で、市民の漢方に対する関心と期待



の大きさが感じられます。

第一部のミニ講演では、これまでに「不眠症・花粉症・冷え症・頭痛・便秘と下痢と腹痛・肩こりと腰痛・アトピー性皮膚炎・風邪・更年期障害」など身近な病気を取り上げるとともに、漢方の正しい普及を願って「漢方を正しく使うために」と題した講演を実施しました。第二部の特別講演（第2回市民公開講座）では、衆議院議員で精神科医かつ漢方医学にも造詣の深い水島広子先生に、「心のケアと漢方」と題してご講話いただきました。水島広子、武見敬三両議員には、超党派で漢方の理解と普及に向けて、今後とも貢献して下さることが期待されます。第三部の「漢方相談」では、参会者からの多数の質問に回答させて頂きました。

市民公開講座は、「漢方に対する正しい理解」に貢献しましたが、これに伴って「証に合った漢方はどこで処方してもらえるのか？」といった質問が相次ぎました。講座は漢方に対する関心に火を点けたのですが、これだけでは無責任で、要望に応じて医療機関や薬局を紹介し、市民が自分に合った漢方薬を手に入れることができるところまでサポートする必要があります。「証に合った漢方を処方できる医療機関や専門医のリスト」、これを市民公開講座とセットで準備することが、県部会の当面の課題となりました。

### 3. 医学教育、専門医制度および研修教育施設

平成13年、医学教育のコア・カリキュラムに「和漢薬を概説できる」という項目が入りました。これを契機に各大学でカリキュラムが変更され、現在ではすべての大学において、それぞれの形で漢方医学教育が取り入れられています。

一方、医学教育に東洋医学が導入されたということは、「日本の医師が、西洋医学と東洋医学の併用あるいは使い分けを、正しく実践することを求められる時代となった」ことを意味しています。したがって、医師が希望したときに研修できる受入れ体制が必要で、日本東洋医学会の専門医制度改定に伴って実施された「研修教育施設の整備」が重要であり、認定された「教育病院と教育関連施設」の役割は大きなものとなります。栃木県では、獨協医科大学病院、自治医科大学附属病院、国際医療福祉病院とその教育関連施設が教育機関として認定されています。

### 4. 栃木県部会、今後の発展

市民の漢方に対する期待に応えるかのように、21世紀の医学教育に東洋医学が導入され、医師に東洋医学の正しい実践が求められ、研修教育施設の充実が図られている現在、県部会の役割と責任は一段と高まっていると言えます。現在会員数は130名前後で、毎年約10名の入会とほぼ同数の退会とがあり、横ばい状態が続いています。県部会活性化のためには、特に大学病院に所属する若手医師たちへ裾野を広げることが肝要で、この意味でも、前述の教育病院3施設の今後の発展に大いに期待したいところです。県部会の発展のため、会員皆さまのさらなるご協力をお願い致します。

# 栃木県漢方研究会学術報告

並びに

## 関東甲信越支部栃木県部会 学術報告

### 第1回 栃木県漢方研究会のご案内

拝啓 新緑の候、先生におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、このたび下記要領にて、栃木県漢方研究会を実施する運びとなりました。ご多忙中のことと存じますが、万障お繰り合わせの上、ご出席下さいますようご案内申し上げます。 敬 具

#### 記

日 時 昭和57年6月26日(土) 午後4時～7時  
会 場 宇都宮市文化会館(2階第1会議室)  
宇都宮市明保野町7番66号  
TEL 0286-36-2121(代)  
内 容:臨 床 報 告 3題(予定)  
特 別 講 演 1題  
昭和57年5月20日  
栃木県漢方研究会

会長 石 崎 達

なお、会場で年会費2,000を受付させていただきます。

### 社団法人日本東洋医学会 関東甲信越支部会 栃木部会第1回教育講演会 一般演題募集のお知らせ

下記要領にて一般演題を募集いたします。奮ってご応募ください。

#### 記

日 時:平成4年9月13日(日) 午後1時～6時半  
場 所:国立栃木病院 地域医療研修センター  
住所 宇都宮市中戸祭1-10-37  
電話 028(622)5241

参 加 費:1,000円

点 数:A 10点

教育講演:1)「花粉症と漢方(仮題)」

鎌田慶市郎 先生

(千葉県・鎌田耳鼻咽喉科医院院長)

2)「足利学校と医療(仮題)」

菊地 卓 先生

(足利女子高等学校教諭)

3)「漢方の薬理(仮題)」

油田 正樹 講師

(株式会社ツムラ企画開発部)

一般演題:6題(予定) 内容は限定しません。

口演時間 15分 質疑応答 5分

締め切り:平成4年7月31日

申込み先:〒321-02 下都賀郡壬生町北小林880

獨協医科大学気管食道科学教室 内

日本東洋医学会 栃木部会事務局

日 野 原 正

☎0282(87)2165 FAX(86)6276



# 栃木県漢方研究会 学術報告

回 開催年月日 時 間 会 場・一般演題・特別公演

第1回 昭57・6・26(土) 16～19 会場：宇都宮市文化会館 2階第1会議室 出席者37名

座 長：日野原 正

一般演題 北島 敏光：吃逆の中医弁証論治

村田 高明：妊娠と漢方療法について

青木 洋祐：グリチルリチンの作用機序

—特にmedullasinとの関係について—

座 長：石崎 達

特別講演 「臨床医学における漢方医学の応用」

講師：東洋医学会理事 菊谷 豊彦

第2回 昭57・11・27(土) 16～19 会場：宇都宮市文化会館 2階第1会議室

座 長：北島 敏光

一般演題 戸田 正夫・他：アレルギー疾患における漢方薬の  
使用経験例

上野 裕：臓象理論による頭痛の治療

金 七龍：痛みと“寒”について

村田 高明：産婦人科領域における瘀血

座 長：石崎 達

特別講演 「中医学の現況と基礎理論」

講師：埼玉医科大学第二内科 宮川 マリ

第3回 昭58・7・9(土) 16～19 会場：ホテルニューイタヤ 出席者48名

座 長：村田 高明

一般演題 山内 浩：慢性肝疾患に対する漢方製剤の  
臨床効果の検討

近沢幸嗣郎：機能性不妊症に対する漢方薬の  
効果について

田中 幸房：大建中湯が著効を示した放射線腸炎の  
症例について

日野原 正：わが国の医療における諸外国  
(特に中国)の影響

座 長：石崎 達

特別演題 「アレルギーと和漢薬」

講師：岐阜薬科大学薬理学教授 江田 昭英

第4回 昭58・11・26(土) 16～19 会場：ホテルニューイタヤ

座 長：緒方 博丸

一般演題 柏渕 成一：婦人科不定愁訴の漢方療法について

上野 統一・上野 裕

頻尿の治療—特に病気の深さについて—

学術訪中報告 北島敏光：訪中を顧みて

山内 浩：中国の医療事情について

座 長：石崎 達

特別講演 「針灸サイドから見た漢方について」

講師：北里研究所附属東洋医学総合研究所部長 間中 喜雄

第5回 昭59・6・23(土) 会場：宇都宮市救急医療センター

座 長：川畑 勉

一般演題：坪田 一男：老人性白内障に対する八味地黄丸の使用  
経験

北島 敏光：糖尿病性神経炎にネフローゼを合併した  
患者の漢方療法

金 七龍：経管栄養中の難治療性下痢に対する漢方  
療法

上野 裕：不眠症における漢方治療

座 長：北島 敏光

特別講演 「漢方の歴史的臨床例の検討」

講師：北里研究所附属東洋医学総合研究所 安井 広迪

第6回 昭59・11・17(土) 16～19 会場：宇都宮市救急医療センター 出席者 42名

座 長：山内 浩

一般演題 門馬 公経：術後、十全大補湯投与例の検討

斎藤 広志：臍膿瘍に対する桃核承気湯の使用経験

近沢幸嗣郎：ベーチェット病に対する漢方療法

座 長：川畑 勉

特別講演 「小児のアレルギー性疾患—喘息・アトピー性皮膚炎」



講師：大阪市立大学小児科 塚本 祐壮

第7回 昭60・6・22(土) 16～19 会場：獨協医科大学 臨床研究棟10階講堂

座 長：村井 敬爾

一般演題 緑川由起夫：アレルギー性鼻炎に対する漢方治療

山内 浩：大柴胡湯や桃核承気湯などの実証用方剤  
が 有効であった2、3の肝疾患例

村田 高明：更年期障害に対する漢方治療

日野原 正・北島敏光：経絡理論についての一管見

座 長：石崎 達

特別講演 「東西医学の対比」

講師：慶應義塾大学名誉教授 長谷川弥人

第8回 昭61・2・15(土) 16～19 会場：国立栃木病院 地域医療研修センター講堂

座 長：北島 敏光

一般演題 上野 裕：感冒の中医学的治療

山内 浩：原発性肝癌患者に対する十全大補湯、補  
中益気湯の臨床効果

長田 浩一：当院でのアレルギー性鼻炎の治験例

座 長：石崎 達

特別講演 「閉塞性呼吸器疾患の漢方療法」

講師 日本東洋医学会会長 室賀 昭三

第9回 昭61・6・21(土) 16：30～19 会場：宇都宮市文化会館 2階会議室

座 長：村田 高明

一般演題 門馬 公経：中国漢方医学シンポジウムに参加して

日野原 正：栃木県下の動物・植物に関する民間療法  
とその考察

座 長：村井 敬爾

特別講演 「外科領域における漢方療法」

講師：杏林大学第二外科教授 鍋谷 欣市

第10回 昭61・11・29(土) 16:30～18:30 会場：国立栃木病院 地域医療研修センター講堂

座 長：村田 高明

一般演題 柏淵 成一：芍婦膠艾湯の貧血改善に対する著名な効

果について

戸村 光宏：消化管の愁訴に対する漢方治療

座 長：石崎 達

特別講演 「漢方療法の実際」

講師：同愛記念病院内科医長 原 桃介

第11回 昭62・6・27(土) 16～19 会場：国立栃木病院 地域医療研修センター講堂

座 長：村田 高明

一般演題 関口 直男：凍瘡に対する当帰四逆加呉茱萸生姜湯の  
使用経験

北島 敏光：慢性関節リウマチと頭痛の著効例

山内 浩：中国漢方医学シンポジウムに参加して

座 長：石崎 達

特別講演 「経絡の構造と臨床」

講師：日本経穴委員会専門委員 石井 陶泊

第12回 昭62・11・28(土) 16～19 会場：宇都宮市文化会館 第3会議室

座 長：山内 浩

一般演題 加藤 智一：肥満症の漢方療法の長期観察

長田 浩一：感冒に対する漢方エキス製剤の治験例

座 長：石崎 達

特別講演 「舌診について」

講師：神戸中医学研究会 森 雄材

第13回 昭63・6・25(土) 16～19：30 会場：宇都宮市文化会館 第2会議室

座 長：川畑 勉

一般演題 原田 一哉：駆瘀血剤による下部尿路不定愁訴の漢方  
治療（第2報）

－血液粘度の変化について－

北島 敏光：針通電刺激時の血流量について

座 長：山内 浩

特別演題 「各種アレルギー性疾患の漢方療法 －リウマチ・膠原  
病を中心として－」

講師：兵庫県立東洋医学研究所副所長 松本 克彦



第14回 平元・6・24(土) 16～19 会場：宇都宮市文化会館 4階第3会議室

座 長：牧野 莊平

一般演題 戸田 正夫・牧野 莊平：

感作ホルモットにおける抗原誘発発作後の好酸球浸潤  
に対する柴朴湯の抑制効果

手塚 隆夫：躁うつ病の漢方治療

座 長：日野原 正

特別講演 「壬生における江戸時代漢方医の実状」

講師：獨協医科大学名誉教授 石崎 達

第15回 平2・6・21(土) 17：30～19：30 会場：プラザインくろかみ

座 長：山内 浩

一般演題 村上 正和・小園江和之・伊藤 泰雄・古市 照人・

高橋 勇

多発性硬化症に対するツムラ柴苓湯の効果

ーステロイド減量と体重増加抑制を目的としてー

高橋 明：

筋緊張性頭痛に対する漢方薬の有用性について

ー柴胡加竜骨牡蛎湯、加味逍遙散を用いてー

座 長：日野原 正

特別講演 「臨床応用のための漢方薬理学」

講師：北里研究所附属東洋医学研究所研究部長

丁 宗鐵

---

栃木県漢方研究会会長・事務局

---

第1回～第12回 石 崎 達

第13回～第15回 日野原 正

---

事務局：昭和57年～平成3年

獨協医科大学気管食道科学教室内

---